

だい かいさつぼろしじりつしえんきょうぎかい
第 3 7 回札幌市自立支援協議会

ぎ じ ろく
議 事 録

にちじ ねん がつ にち きん ごご じかいかい
日時：2021年12月17日（金）午後6時開会
ばしよ かいさい しよう
場所：オンライン開催（Zoom使用）

1. 開 会

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） それでは、定刻を過ぎましたので、第37回札幌市自立支援協議会を開始いたします。

まず、初めに、事務局より皆様に2点お願いがございます。本日はオンライン開催となりますので、各議題で報告をいただいている間、ほかの音が入ることを防ぐため、お聞きになっている方はマイクをオフにさせていただきますようお願いいたします。また、会議中はカメラをオンにいただき、皆様のお顔が見える状態で進めてまいりたいと思います。ご協力をどうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、まず、事務局から事前説明を行います。

お手元の次第をご覧ください。

最初に、本日の流れの確認ですが、次第に沿いまして、最初に、事務局から事前説明を5分程度、次に、報告・協議事項を115分予定しております、20時には閉会したいと考えております。

続きまして、資料の確認です。

次第に、配付資料一覧を掲載しておりますので、ご確認いただければと思います。

資料1として、札幌市自立支援協議会委員名簿というA4判1枚になります。資料2として、札幌市自立支援協議会組織図というA4判1枚になります。資料3として、各部会からの報告というホチキス留めの資料になります。資料4として、課題整理状況一覧というホチキス留めの資料となります。令和2年度年間活動報告書で一定の改善が見られたため、一旦、取組終了と整理した課題については、今回の全体会から資料には載せておりませんが、札幌市公式ホームページやワン・オールのホームページでご確認が可能です。

なお、ホームページのURLは、資料4の目次のところに掲載しております。

資料5ですけれども、札幌市自立支援協議会の会長選出の考え方についてというA4判1枚物になります。資料6として、さっぽろ障がい者プラン2018の2020年度進捗状況報告書という厚い資料となります。

資料は、以上となります。

続きまして、委員の出席状況ですが、事前にお配りしている委員名簿をご覧ください。

本日は、手稲区地域部会長の西村委員がご欠席のため、代理出席といたしまして、相談室つむぎの津村様、北海道あすなろ会の渡辺様にご出席をいただいております。

また、清田区地域部会長の栗虫委員からは、業務の都合で欠席という連絡をいただいております。

今年度の委員の交代によりまして、今回の全体会に初めて参加される方が2名いらっしゃいます。お配りしております委員名簿の上から4番目ですけれども、子ども部会長の北川委員の後任になりますむぎの子会地域支援部長の金澤委員は、本日、まだ、Zoomに入られていないところです。

続きまして、名簿の下から2番目になりますけれども、まちづくりサポーター代表でし

た鈴木委員の後任で、新たにまちづくりサポーター代表に就任された山田(英)委員が今回初めての参加になります。

よろしければ、今回初めて参加される委員の方から、簡単に結構ですので、ご挨拶をお願いできればと思います。

山田(英)委員からご挨拶をお願いしてもよろしいでしょうか。

○山田(英)委員 視覚障がい者なものですから、Zoomのカメラへの切り替えの仕方がよく分からなくて、アバターになっているかもしれません。

福祉のまちづくりサポーターの代表を今期から3年間務めさせていただきます山田英雄と申します。

北区の麻生で鍼灸治療院をやっております、ほぼ視力がない状態です。

今期から、私を含め、視覚障がい者の方や、いろいろな障がいのある方々のチームを新たに作り直ししまして、障がい福祉課に事務局を担っていただいて活動を始めました。

活動、会議は、2回ほど、Zoomで行っているのですが、今後、また、こちらで、経過もしくは結果を報告させていただくことになると思いますので、よろしく願いいたします。

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) どうぞよろしくお願いたします。

そのほか、本日の議事録作成のため、札幌速記事務所が参加しております。

なお、この協議会については、議事録を作成し、後日、札幌市のホームページ上に公開する予定となっております。ご発言の際には、情報保障の観点から、所属と名前を述べられてから、なるべくゆっくりご発言ください。

また、差し支えなければ、オンライン開催の様子を写真に撮らせていただきまして、開催時の様子として、あわせて札幌市役所のホームページやワン・オールのホームページに掲載させていただければと考えております。写真には写りたくないという方がいらっしゃいましたら、今この場で挙手にて申し出いただけますでしょうか。

それから、傍聴されている方々におかれましては、ご発言はできませんので、配付しております意見参加シートにご意見やご要望をご記入の上、後日、障がい福祉課へ郵送あるいはメールでご提出していただければと思います。皆様の貴重なご意見を今後の会議運営に反映させていきたいと考えております。

それでは、議題に移ります。

7月に前会長の永井委員が退任しましたので、会長選出まで事務局にて進行させていただきます。

2. 議 事

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) それでは、議題に入ります。

議題の一つ目は、会長の互選についてです。

会長選出の際の考え方の参考資料として、資料5の札幌市自立支援協議会の会長選出

の考え方についてを事前に配付しておりますので、ご参照ください。

この中で、札幌市自立支援協議会は、様々な立場の委員が活動し、幅広く意見交換を行う場であり、できる限り広い視野を持ち、公平・中立な立場の委員を候補とすることが望ましいことを確認しました。

会長の選任については、札幌市自立支援協議会規則第2条に、委員の互選により、これを定めるとあります。

まずは、会長に立候補される方はいらっしゃいませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) それでは、どなたか、会長へのご推薦はございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) 事務局からの案として、候補者を推薦させていただきます。

事務局案として、会長に近藤委員を推薦したいと思います。

近藤委員におかれましては、部会所属ではない学識経験者の立場であり、全体の進行、運営会議等における課題整理等、協議会運営の役割を担っていただきたいと思います。

いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) それでは、会長は、近藤委員にお願いしたいと思います。

なお、副会長につきましては、昨年12月の全体会で小谷委員が選出されていることを申し添えます。

それでは、ここからは、近藤会長に議事進行をお願いいたします。

○近藤会長 皆様、こんばんは。

北海道医療大学の近藤と申します。

私は、北海道医療大学で、障がい福祉を専門に社会福祉士の養成課程で教員をさせていただいております。

初めてなことも多くて、スムーズな進行にならない部分も出てくるかもしれませんが、皆さんと一緒に、よい活動を進めていければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日は、次第に沿って報告、協議を行っていきたく思います。報告や協議ごとに、ご意見、ご質問を伺う流れになっております。委員の皆様におかれましては、今後の部会、プロジェクトの活性化のため、ご意見等を積極的にご発言していただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

また、ご発言いただく際には、手を挙げていただきますか、オンラインですので、マイクをオンにしてお声を発してください。

また、画面を共有して報告書を表示しますが、お手元に届いております資料のほうが見やすい場合もあるかと思っておりますので、両方をご用意いただきながら進めていただければと思います。

それでは、各部会の報告から始めたいと思います。

各部会運営で工夫していることや困っていることの見聞交換を進めていければと思います。

各区地域部会と各専門部会の報告についてですが、活動内容は、配付資料3をご覧くださいまして、これまで同様、部会運営で工夫していることや困っていることを中心に共有し、さらなる部会の活性化につなげられればと思います。

中央区地域部会から報告をお願いしていきますが、目安は1部会3分程度、質疑応答は全ての部会が終わった後に行いたいと思います。

また、各地域部会の部会長で構成される地域部会連絡会が11月に開催されておりますので、地域部会連絡会からのご報告もいただきたいと思います。こちらは、10区の地域部会の報告をいただいた後にお願いでできればと思います。

それでは、早速、中央区地域部会長、報告をよろしくお願いいたします。

○妻倉委員 中央区地域部会部会長の妻倉です。よろしくお願いいたします。

資料の補足をさせていただきます。

昨年度は地域部会連絡会の定例会がコロナ禍でできなかったのですが、Q&Aということで、コロナ禍に対する分からないこと、こういうことはこちらに聞いてくださいというアドレスを載せた資料と、地域生活支援センターさっぽろで利用者向けにつくったコロナ感染症対策の方法の資料を提供していただいて、その二つを会員にメールで送り、活用してくださいということをやっております。

また、コロナ禍で利用者が困っていることというアンケートもさせていただきました。

今年度は、2日前に、一昨年の2月からずっと休んでいた中央区地域部会の定例会を約2年ぶりに行いました。対面での定例会が難しいので、Zoomでさせていただきました。

情報共有や相談事もあったのですが、コロナ禍で困っていることがあれば話し合ってくださいということでグループワークをしまして、いろいろな意見が出たところでは、やはり対面だけでなく定例会を行ったほうがいいなというのが私の感想でした。ですから、今後も、対面が難しくてもZoomなどでやっていきたいと思っております。

以上です。

○近藤会長 コロナ禍の中で工夫されながら、Q&Aも面白い活動だなと思っております。

引き続きまして、北区地域部会からお願いいたします。

○和田委員 北区地域部会の和田でございます。

北区地域部会では、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響でほとんど活動ができないという状況を踏まえまして、令和3年度では、内容はともかく、Zoomを使って、事務局会議、運営委員会等を開くことを優先して行ってみて、Zoomの使い方にも大分慣れてきたと

ころでございます。

今期こんきの下半期しもはんきについては、11月25日がつにちに、「障害福祉サービスしょうがいふくしにおける情報通信機器じょうほうつうしんきの活用かつようについて」ということで、Zoomつかを使って学習交流会がくしゅうこうりゅうかいを開くことができました。

北区地域部会きたくちいきぶかいの子ども部会こどもぶかいの中でも、「豊明高等養護学校ほうめいこうとうようごがっこうでの性教育せいきょういくの取り組みとりくみについて」ということで学習会がくしゅうかいを開催かいさいすることができました。

大分だいぶん、オンラインにも慣れてきてはいるものの、ここ最近さいきん、大分落ち着きだいぶんおちつきを見せている中なかで、来年3月らいねん3がつ、今年度末こんねんどまつぐらいでは、オンラインと参集方式さんしゅうほうしきをハイブリッドてき的に使つかって何かできないか、感染かんせんの状況じょうきょうにもよりますけれども、考えているところかんがでございます。

やはり、新型コロナしんがたの影響えいきょうで、改めて課題かだいの抽出方法ちゅうしゅつほうほうなどを検討けんとうするような時間じかんにもなったので、そういったことを踏まえて、令和4年度れいわねんどでは、いい活動かつどうがいろいろできるのではないかとおもっております。

以上いじょうでございます。

○近藤会長こんどうかいちょう Zoomつかなども使つかいながら、会かいを継続けいぞくしていく取組とりくみを続つづけていただけたとおもいうことで、どうもありがとうおんがらうございます。

また、ハイブリッドかたちみたいな形かたちも、今後こんご、ウィズコロナなかの中で必要ひつようになってくる活動かつどうかと思おもいますので、ぜひ全体ぜんたいでも何か共有きょうゆうしながらノウハウノウハウもつないでいけたらいいのかなおもと思おもいました。

では、続つづきまして、東区地域部会ひがしくちいきぶかいからお願ねがいいたします。

○小谷副会長こたにふくかいちょう 東区地域部会ひがしくちいきぶかいの副会長こたにです。よろしくお願ねがいいたします。

皆さんみなが言いっていたように、東区地域部会ひがしくちいきぶかいでも、令和2年度れいわねんどはほとんど運営会議うんえいかいぎ等おこなを行おこなうことができませんでしたが、7月がつから、Zoomつかを使って、事務局会議じむきょくかいぎ、運営会議うんえいかいぎを開催かいさいすることができています。子ども部会こどもぶかいでは、ウェルトークをオンラインで開催かいさいしています。

東区地域部会ひがしくちいきぶかいでは、毎年まいとし、会場かいじょうを借りて、地域ちいきの方が障がい者かたしやへの理解りかいを深めるためふかにふくしマルシェかいさいを開催かいさいしているのですが、現在げんざい、コロナ禍かのため、参集さんしゅうして催しもよおを行おこなうことは難むずかしいため、それに代わるものとして、やはり、一番いちばんは就労継続支援しゅうろうけいぞくしえんを中心ちゅうしんに、例えば、食べ物たべものを作つくっている就労継続支援しゅうろうけいぞくしえん等とうのところへ行いって、実際じっさいに食たべて取しゅ材ざいしたものをオンラインで流ながすというのを今いま考えているところかんがです。

おかげさまで、7月がつから事務局会議じむきょくかいぎ、運営会議うんえいかいぎを開催かいさいして、密度みつどの濃こい意見交換いけんこうかんが行おこなわれています。このコロナ禍かでも、情報交換じょうほうこうかんや交流こうりゅうの機会きかいを減へらさないように、オンラインつかを使つかって、今いまのようなイベントいふふを実施じっししています。

タピネットという会報誌かいほうしで、各自かくじ、東区ひがしくにある全事業所ぜんじぎょうしょに、各種情報提供かくしじょうほうていきょうを行おこなっています。

以上いじょうです。

○近藤会長こんどうかいちょう やはり、同じように、新型コロナしんがたの影響えいきょうで活動かつどうがなかなか難むずかしかったですが、工夫くふうされて活動かつどうが継続けいぞくできていると思おもいますし、取材しゅざいも何か面白おもしろい活動かつどうだとおもうふうおもしろに聞きかせていただきました。ぜひ様々さまざまな形かたちで情報発信じょうほうはっしんができる工夫くふうを共有きょうゆうしていければ

と思います。

続きまして、白石区地域部会からお願いいたします。

○斎藤委員 白石区の斎藤です。

白石区地域部会では、本年4月に運営部会を行って、その後、コロナ禍で一切の活動を中止しており、12月9日に、8か月ぶりに運営部会を再開いたしました。

白石では、少数ですが、設備環境が整備されていない事業所があることから、Zoomによる会議、研修を断念いたしました。

10月25日に、子ども部会で研修会を開催しております。これは、対面とユーチューブの限定配信というハイブリッドで40名が参加しております。これは、Zoomを使っていません。

1月20日に、子ども部会の研修会を予定しております。これは、白石で毎年行っております「児童虐待を未然に防ぐために」シリーズ、研修会の3年目になります。今回は、児童相談所から講師を2名派遣していただきまして、虐待通告を考えるとということで、対面とユーチューブの限定配信で60名を予定しております。

私どもとしては、Zoomではなくて、できるだけ感染対策を取りながら、対面での研修、会議という方向性で動いております。

以上です。

○近藤会長 設備環境の課題などがあり、感染対策をした対面での対応、ユーチューブの限定配信ツールのお話もいただきました。また、この辺りも共有しながら、いろいろな方策が選択肢として選べるようにしていければと思います。

続きまして、厚別区地域部会からよろしくお願いいたします。

○富田委員 厚別区地域部会の富田です。よろしくお願いいたします。

厚別区地域部会につきましては、ほかの区と同様ではありますけれども、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、月に一度は幹事会をオンラインで実施いたしました。あわせて、三役事務局会議もちりばめながら、顔を合わせる機会については、コロナ禍の中でありましても、ある程度コミュニケーションを取れていたと思います。

地域のケースは、臨時のケース検討を5回ほど実施しております。やはり、緊急性の高いケースの場合はそのままにしておけないので、情報共有だけはしっかりしようということで、当初は対面でできませんでしたのでZoomでしたが、最近は、少人数で直接顔を合わせて話すという機会に少しずつ緩和されてきております。

コロナ禍の最中ということで、何もできないのかということでは困ると委員からありまして、こういふときだからこそ、地域に向けて部会の周知徹底をしていこうということで、チラシの見直し、作成、配布ということで、実際、地域の中で長く活動されている事業所等もたくさんございますけれども、こういった時期に、再度、しっかり説明をして周知していくというような活動を今行っているところです。

部会の研修会ということで、4月の総会時に、コロナ禍ならではのテーマではあります

が、スタッフのメンタルヘルスの問題、10月21日には、生活困窮の実態のお話を伺いたいということで、札幌市における生活困窮者支援について、講演会を企画しております。

厚別区地域部会は、以上でございます。

○近藤会長 同様に、新型コロナウイルスの影響等もありましたが、定期的な開催や、ケース検討なども継続して行われているところで、工夫する中でも、大事なところは押さえていきましようということかと思えます。

また、周知という部分も、時間が少し取れるのでできることは、ほかの部会でもありましたが、重要なことかと思えますので、引き続きよろしくお願ひします。

では、続きまして、豊平区地域部会からよろしくお願ひいたします。

○小熊委員 豊平区地域部会の小熊です。よろしくお願ひいたします。

豊平区は、4月から運営委員会のリモート開催を5回行っておりまして、9月だけは新型コロナウイルスの影響で自粛しました。

広報アップルネットワークというものを2回、6月と8月に発行いたしました。ただ、内容があまりなくて、1回につき2か所の事業所紹介ぐらいということで、寂しい内容になってしまいました。

7月には、重度訪問介護の非定型申請に関するアンケート調査を実施いたしました。非定型申請は、昨年4月から始まったばかりですけれども、そこでの疑問や困り事はありませんかといった内容で実施させていただきました。

あとは、つきいち会と申しまして、相談支援事業所を中心に情報交換などを行う会議をオンラインで5回開催しました。

以上が上半期の主な内容でしたが、先日、自立支援協議会の連絡会において、非定型申請に関するアンケート調査のことをご報告しましたら、割と関心を持っていただけている事業所もありまして、今後、来年のどこかで、自立支援協議会内で、その問題について、どう取り組んでいくかという議論をしていけたらと思っております。

皆さんと同じように、豊平区は、どちらかという、まだ例会を行えていないのですが、やりたいという思いはあるので、今月22日に、今年度中に開催できるかどうかを会議で話し合っ、どのような形で開催するかということ議論する予定であります。

以上です。

○近藤会長 同様に、新型コロナウイルスの影響があるということですが、その中でもできる活動や、広報なども継続をしていただけているところでは重要なところかなと思えました。

また、非定型申請に関するアンケートも重要な部分になってくると思えますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

では、続きまして、清田区地域部会からお願ひいたします。

○尾形委員 清田区地域部会に関しましては、本日、栗虫委員が欠席されておりますので、

代わって、私、香雪病院の尾形が副部会長の立場から報告させていただきます。よろしくお願ひいたします。

詳細につきましては、冊子をお読みいただければと思いますが、清田区は、現在までに運営委員会を3回開催しています。7月は対面で行いましたが、10月、11月はZoomを活用したウェブ開催としています。

上半期には、新型コロナウイルスの状況が終息に向かいつつある現状にあっても、今後もウェブを活用した様々な例会や研修会は増えていくだろうということで、区内の各事業所を対象に、ネット環境等についてのアンケート調査を実施しました。回収率はそんなに高くはなかったですが、おおむね何らかの形でウェブを活用して参加できる事業所が多いということが分かったので、今後は、積極的にウェブを活用した例会、研修会等を開催していこうということが話し合われています。

実際に、来年2月には清田区地域部会の各事業所を対象にした研修会をZoomで開催することを予定しております。テーマは、今話し合っている「困っていること」にもつながりますが、そもそもこの自立支援協議会とは何かということ、協議会はどんな役割を果たしているところなのか、あるいは果たすべきなのか、私たち一人一人の実践に引きつけて考えた場合に、協議会をどのような形で活用していくのか、活用していくべきなのかといったことを学習し、その中の「地域部会」の機能や役割も含めて、一度、これらの再確認が必要ではないかと考えており、そのような内容で検討を進めています。

例会や研修会に出てくる事業所やスタッフはかなり限定されていて、毎回決まったメンバーです。清田区ではこういったことが大きな課題として挙がっていましたので、いま一度、自立支援協議会の意義や目的をしっかりと伝達するような研修会を行ったかどうかということで、来年2月にワン・オール的林さんに講師を務めていただき、そのような研修会を開催する予定です。その他については、冊子をお読みいただければと思います。

報告は、以上とさせていただきます。

○近藤会長 ネットワークの環境等のアンケートも重要な情報として取っていただけたと思います。全ての事業所でネット環境が整うことは難しい部分もあるかもしれませんが、多くの事業所でそういった活用ができると確認するのも大事な情報かなと思います。

また、協議会の在り方や、活動の方向性を見直していくというところは重要であると思います。輪を広げていくという役割でも、とても重要な取組だと思いました。引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、南区地域部会からお願ひいたします。

○山田(訓)委員 南区地域部会の山田(訓)です。よろしくお願ひいたします。

ほかの区と同じように、昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止から活動を一切休止していましたが、今年度も長引いていることもあって、運営委員、事務局にてできることはないかということ積極的に検討しているところです。

会議等については、オンライン会議で行っています。その結果、事業所に対してのコロナ禍での困り感をアンケートで集計してみようということで、今、アンケートの項目を検討している最中です。

南区は専門部会が三つあるのですが、専門部会全て休止にしている、今後、アンケートの結果から課題を抽出して、各専門部会で課題にどのように取り組んでいくかということ、今後、検討していく予定となっています。

やはり、困っていることが多くて、コロナ禍で活動ができていないので、南区地域部会の認知度は、以前も高いとは言えない状況でしたが、さらに低下していると感じています。

今回、新型コロナウイルスの影響もあって、事業所同士の横のつながりが希薄になってしまっていると感じているところが課題だと思っているので、今後、この辺りの課題に対して何かできることないかを併せて検討していきたいと考えています。

南区は、以上です。

○近藤会長 困り感のアンケートでは、今いただいたつながりの部分も何か盛り込めるのかなと思いつながりながら聞いておりました。活動自体が難しい状況ではあるかと思いますが、そうした活動を少しずつ継続していただいているところは重要な点かなと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、西区地域部会からよろしくお願いいたします。

○前田委員 西区地域部会の前田です。よろしくお願い致します。

西区地域部会の報告の前に、一言だけお礼を言いたいことがあります。

新型コロナウイルスのワクチン接種について、8月に、私どもの施設に巡回接種を実施していただきました。非常に多くの利用者の方が一度に接種できて、本当に助かったということと、また、大きな安心を得ることができました。こういう思いをしている事業所はたくさんあると思うのですが、巡回接種に向けて尽力していただいた札幌市障がい保健福祉部の方、特にワクチン担当の方、大変ご苦労があったのではないかなと思います。

また、当日、お世話になりましたシミックヘルスケア様に対しても、この場をお借りして御礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

また、3回目の接種の話題が出てきております。その際にも、私どものような医療とつながりの薄い事業所にとっては、こういう巡回接種を行っていただけると非常にありがたいと思っておりますので、今後とも、またよろしくお願いしたいと思います。

さて、西区地域部会の上半期の活動報告ですが、4月に事務局会議を行い、今年度の活動内容を話し合っております。新型コロナウイルスが流行している中でもできる活動ということで検討し、今年度1年をかけてZoomを使つてのやり取りに慣れることをメインにして予定を組みました。

流れとしては、Zoomを使った事務局会議から始まって、構成員が集まったの全体会をやつて、その後、グループに分かれてグループワークをやつて、その後、年度末の3月

ぐらいには、講師の先生を呼んで研修会ができればいいなと思っておりました。しかし、緊急事態宣言が出てしまって、上半期は大部分の活動が中止となっております。

緊急事態宣言が開けた9月から、また、再スタートということで、事務局会議から開催して下半期の活動内容を見直しております。

下期にやったことは、10月に、Zoomに慣れるということで、事業所の紹介、事業所で困っていること等を、参加された事業所から発言をいただいております。来年1月には、今度はZoomを使つてのグループワークを予定しております。

困っていることとしては、Zoomで全体会を行うと、事業所によっては、パソコンが少なく、複数の職員が参加できないことです。だから、参集型の開催を望む声もあるのですが、新型コロナウイルスの感染状況が下火になっているとはいえ、感染への不安から、以前のような参集型での開催にどのタイミングで踏み切ったらいいのか、なかなか踏み切りがつかないというか、悩んでいるところではあります。

西区地域部会からは、以上です。

○近藤会長 やはり、新型コロナウイルスの影響もいろいろと大きかったのかなというところで、Zoomに慣れてもらう取組は、マイナスだけではなく、新たなスキルを身につけるといふ部分では、地域の方と一緒に取り組んでいくという方向はとても重要ななと思ひました。

また、対面に戻せるタイミングは、どうしても慎重にならざるを得ないところだと思ひますので、その辺りもほかの部会はどういった取組を検討しているのか、うまく情報交換しながら取り組んでいただけるといいのかなと聞いておりました。

続きまして、手稲区地域部会よりお願いいたします。

○西村委員代理者 手稲区地域部会の渡辺です。よろしくお願ひいたします。

今日は、部会長の西村さんが欠席のため、私と津村さんが代理で出席しております。

手稲区地域部会には、まち課題グループ、就労グループ、子どもグループの三つの専門グループがあるのですが、まち課題グループにつきましては、参加人数の少なさや活動内容の不明瞭さというところで、この後の活動継続は困難と判断いたしまして、一旦、解散することとなっております。防災につきましては、今後も関連で、課題をテーマにグループ化していく予定と考えております。

就労グループですけれども、一旦、新型コロナウイルスが収まりかけた8月上旬に、就労系の事業所が参加いたしまして、ゆにガーデンというところで販売会を実施いたしました。地域部会に参加していない手稲区内にある就労系の事業所にもお声がけをして、6事業所が参加しております。

今まで、就労グループでは、スーパーの店内での販売会等を実施しておりましたが、コロナ禍でスーパーの受入れもなく、また、室内のためできないという状況であったのですが、ゆにガーデンにおいては、屋外での実施となりましたので、十分、新型コロナウイルス対策をした上で行えば大丈夫であろうという判断をして実施いたしました。

その後、9月に行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言が発令されたも

のですから、ここについては、地域部会としては関わらず、有志で参加しているところで

す。子どもグループにつきましては、手稲区地域部会が作成したアンケート結果を基に、虐待に関する方針を、来年1月、2月、3月に実施を予定しております。

また、そのアンケート調査を子どもグループが主導で行いまして、手稲区地域部会に何を望むのか、どういう活動を期待しているのか、もしくは、インターネットの環境等々につきましてもアンケートを取っております。

インターネットの環境については、大体の事業所が整っているようで、今後もZoomでの研修会や定例会などは実施できるのかなと思っております。

今現在、Zoomで定例会などを行っておりますが、11月ぐらいから対面でも定例会も再開しております。対面での定例会においては、新型コロナウイルス感染に十分に気をつけて、広い空間であったり、二酸化炭素濃度計を使って数値化してしっかり換気をしたりなど、その辺は十分に配慮して行っているところです。

今、部会運営で工夫していることや困っていることにつきましては、まち課題グループが解散したので、今後のグループ編成、地域部会の活動の意義などを、各グループの委員から意見聴取を行いまして、来年度に向けて、さらにいい活動ができるように検討を行っていきたく考えています。

また、各区の活動を参考にするために、協議会の傍聴などへの参加の検討をしております。

以上です。

○近藤会長 グループの新たな整理を進められているという話をいただきました。新型コロナウイルスの影響はありますが、新しい活動の場も広がっていかれて、ゆにガーデンや、活動の在り方の工夫もご報告いただけたのかなと思いました。

また、アンケートも、ほかの部会でも行われていましたけれども、こういった状況の中では重要な点になっていくと思いますので、それを生かしながら活動の継続をお願いできればと思います。

続きまして、地域部会連絡会に関する報告についてお願いします。

○小熊委員 地域部会連絡会につきまして、今回、私が議事録を担当させていただき、皆さんに修正等をしていただいて、このようにまとめました。

活動実績としては、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、活動を見合わせるということで、上半期の活動実績は活動を見合わせております。

下半期については、新型コロナウイルスの様子を見ながら二、三か月に1回、連絡会を開催する予定ということと、地域課題の整理について検討していきたいというところで、一旦、終了となったプロジェクトを解体して、各障がい別に地域課題の整理を改めてやっというお話になっています。これから検討していくということです。

事務局会議にて事前に論点を整理して素案の検討を行っていくという、これが継続さ

れております。

豊平区の報告でもありましたとおり、重度障がい者に関する課題検討と、身体障がい者・知的障がい者地域生活移行に関する課題検討状況を共有する、このようにもともとあったプロジェクトを分けて発展、整理していこうというお話です。

米印で、関連して、重度訪問介護の非定型申請についてのアンケートを複数の区で実施予定であり、その結果を自立支援協議会へ報告し、市域として扱うかを検討してもらうという方向で検討していくということです。

移動に関するプロジェクトチームからの依頼についての取組状況を共有するという予定もあります。

以上です。

○近藤会長 各部会からいただいた情報などを整理したり、これまでの取組を継続していく部分の情報共有や、先ほど豊平区がやっておりました非定型申請に関するところも、もう少し広げてアンケートをとということでのご報告をいただきました。ぜひ引き続き、取組をお願いしたいと思います。

続きまして、資料の順番でいきますと、相談支援部会からお願いしたいと思います。

○荒川委員 相談支援部会の荒川です。よろしくお願いたします。

相談支援部会の令和3年度上半期の主な活動実績です。

課題調べシートによる課題検討の継続は、全事業所ではないのですが、毎月、札幌市障がい福祉課に課題調べシートというものが上がる仕組みになっております。毎月、一つ、二つぐらいは出ているような状況です。

札幌市相談支援体制整備に向けた目安検討チームの設置ということで、この目安というのは、計画相談支援の目安ですが、相談支援体制整備では、委託の相談事業所はどうしても計画相談支援もできるというところで、業務がかなり圧迫しているような状況がありますので、そういう検討の場が設けられております。

地域生活支援拠点等について、要綱に規定されたことによる障がい者相談支援事業の役割の確認もしております。

活動概要ですが、会議については、リモート会議を継続しております。

課題調べシートにて課題を共有し、解決策について検討というところでは、書いているとおり、以下、二つになっております。

目安検討チームは、先ほどお伝えした計画相談の目安ですが、調査をすることになりまして、今月、12月7日に全委託相談事業所に調査票を発信したところです。

この調査ですが、かなり過去に遡って、昨年1年間の相談ケースの調査になりまして、集計が結構大変になっております。2か月間の期間がありますので、回収できる見込みで動いていこうと思っております。

定例会にて、計画相談支援等マニュアルの改定について共有しております。

障がい者相談支援事業実施状況報告書ガイドラインも見直ししております。これは、

その都度、見直しするようにしております。

地域生活支援拠点等の緊急受入先調整窓口業務について、委託法人より説明を受けております。委託相談事業所との連携イメージなども、会議の中で共有しております。

各派遣会議への出席は、以下のとおりです。派遣会議も14会議あります。

地域支援員会議にて、各区地域支援の状況について常時共有しています。

この地域支援員は、委託相談事業所が10区、10か所に配置されています。

地域支援員会議のチラシの見直しなども、今現在検討しております。

下半期の活動予定ですが、先ほど言った目安検討チームで調査を実施しているのですが、その調査が回収された後に分析をする予定です。

課題調べシートによる課題の共有と解決策についての検討は今後も継続していきます。

地域支援員の活動促進を目指して、2月に地域支援員会議があるのですが、その会議の中で、社協に講師に来ていただいて勉強会を開催する予定です。

居住支援協議会との意見交換会が12月3日にありました。

部会運営で工夫していることや困っていることですが、リモート会議で実施しているのですが、内容的にかなりボリュームがあるので、結構時間が要しているというので、予定より時間が過ぎてしまうことが多いということが困っているところです。

以上です。

○近藤会長 かなりいろいろな活動に取り組んでいただけているかなと思いますので、その中で目安の整理やアンケートを取っていただいている部分は、ぜひよい形で進んでいただければと思います。

では、続きまして、子ども部会です。

○事務局（斉藤就労・相談支援担当係） 事務局から連絡になります。

金澤委員のネット環境が悪くて、今、参加できておりませんので、もし金澤委員が入りましたら、会議の一番最後にご報告いただきたいとおもいます。

○近藤会長 承知いたしました。

子ども部会は金澤委員が来てからということで、先に就労支援推進部会からお願いできればと思います。

○重泉委員 就労支援推進部会の就業・生活応援プラザとねっとの重泉です。よろしくお願ひします。

上半期の活動実績ですが、ほぼZoomで行っています。定例会は、6月4日に行いました。「コロナ禍における各地の就労支援」ということで、埼玉県と福岡市の方にZoomでお話を聞いています。大体、80名から90名近くの参加者がありました。

あとは、研修の開催ということで、コロナ禍における事業所運営についての情報共有会等、さぼコンは、今、全て各チームの会議も中で行っております。

部会運営で工夫していることや困っていることですが、上半期については、繰り返しになりますけれども、Zoomを使用して研修等を行っております。

また、コロナ禍における事業所運営についての情報共有会では、そちらにばすとらるとジョブロジックと書いてありますが、実際に新型コロナに罹患した事業所の方たちに来ていただいて、利用者対応や保健所対応といったことを生の声でリアルに語っていただき、参加された方も大変参考になったということでした。実際、こういうことに気をつければいいのだなということでグループワークもして、大変身になったという感想をいただいております。

下半期も同じように、Zoomで運営委員会等を開催する予定になっております。

以上です。

○近藤会長 同様に、新型コロナの影響の中ですけれども、Zoom等を活用した研修や、実際の予防策だけではなく、もし方が一のことが起こった後の対応についての研修会というのも重要なところかなと思いますので、そういった取組の情報なども様々な方々と共有できたらいいのかなと思いました。

○事務局（斉藤就労・相談支援担当係） 事務局ですが、今、金澤委員が入られました。

金澤委員、子ども部会のご報告は可能でしょうか。

もしかしたら音声が届かないかもしれませんので、先に進めていただきまして、後ほど、またネット環境がよくなりましたら報告いただきたいと思います。

○近藤会長 承知いたしました。

では、子ども部会はまだですが、今、それぞれの部会に関するご報告をいただきました。短い時間で恐縮でしたが、全体を通しまして、ご意見やご質問、情報共有を進めていきたい点などありましたら、随時、ご発言等をいただければと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

鴨崎委員、ご発言をお願いいたします。

○鴨崎委員 地域包括支援センターという枠で参加させていただいております手稲区第1地域包括支援センターの鴨崎と申します。よろしくおねがいいたします。

地域包括支援センターは、65歳以上の高齢者の方の総合相談の窓口や、要支援の方のケアマネジメントも行っている機関になります。

3点ほど、中央区の地域部会と、厚別区の地域部会と、相談支援部会にご質問させていただければと思います。

一つずつお聞きできればと思いますが、中央区の地域部会の資料の2ページの真ん中辺なのですけれども、「医療、児童、高齢者関係の参加者が少なく」ということと、「参加者の底上げするための方策をどのように行っていけばよいか」という記載があるのですが、今、実際にどういった方がメンバーで入られているのでしょうか。高齢者関係では私たちも関わりが出てくるのかなと思ったものですから、何か協力できるようなところがないかなと思ひまして、質問させていただきたいと思ひます。

○妻倉委員 今は、福祉サービス事業系というのでしょうか、居宅介護事業所や、放課後等デイサービス、就労継続支援A型・B型、就労移行支援事業所、相談室が主かと思ひま

す。

いろいろな地域課題がありますが、障がい福祉分野だけではなく、高齢者分野に関わることや、医療に関わることがあるので、ぜひいろいろな方に参加していただきたいと思ひまして、関係の事業所には連絡をさせていただいております。ただ、時間などの都合上、なかなか参加していただけないのですが、最近、高齢の事業所から参加していただいているかなと思ひます。

2日前に久しぶりにやった地域部会では、病院のソーシャルワーカーにも参加していただいているので、今後も、中央区の病院や高齢者関係の事業所に地域部会の定例会をご案内させていただいて、参加していただくように頑張ろうかなと思ひています。

○鴨崎委員 地域包括支援センターも、日々、総合相談対応等で、地域の課題というところで、いろいろ感じていることや、その課題解決に向けた取組を実際の業務の中で行っている機関になります。各区に地域包括支援センターがごございますので、ご協力をさせていただくこともできるのかなと思ひて聞かせていただきました。

私は、社会福祉士で勤務しているのですが、前職は医療ソーシャルワーカーとしても勤務しておりまして、今も北海道医療ソーシャルワーカー協会に所属しております。たしか手稲区では、北海道医療ソーシャルワーカー協会の関係で参加していた時期もあったかなと思ひますので、そういったいろいろな接点を持ちながら、皆さんで地域課題について取り組んだり、議論ができたらいいなかなと思ひました。

○妻倉委員 よろしくおねがいします。

ただ、参加をしていただくため、勉強会を定例会の中でやっているのだから、そこで講師として包括の方に来ていただいたり、それをきっかけに参加していただける方が増えているかなと思ひます。ぜひ働きかけもおねがいしたいのですが、私たちでもそういうふうに工夫しております。

○鴨崎委員 わかりました。

私たちの大本は、市役所でいうと介護保険課になりますので、そういったところにも働きかけていただくと、私たちも参加しやすくなるのかなと思ひました。

続いて、厚別区の部会にもお聞きしたいのですが、資料の12ページの上半期の活動の高齢チームに、「10月19日、地域のケアマネジャーから依頼がありケース会議を実施」という記載があったのですが、これは、介護保険のケアマネジャーと何かケース会議があったのかなと思ひまして、どのような経緯で、どんなことを話し合われたのか、差し支えなければお聞きしたいと思ひたのですが、いかがでしょうか。

○富田委員 これは、先ほど報告の中で申し上げました5点あったケース検討の中の2点ですけれども、介護保険のケアマネジャーから実際のケースについて、サービス利用の行き場の問題で選択に困っているというケースでした。厚別区の場合は、割合、第1包括、第2包括の主任がメンバーに入っている関係もあって、障がいというより、高齢の方のスタッフが多いため、今、そういったものが単発のケースとして上がってきている傾向があ

ります。

○鴨崎委員 手稲区でも、私たち地域包括支援センターと委託の相談支援事業所で、定期的にお話しさせていただいたりということで、ここ数年で連携がかなり多くなりました。ケースを通じて、一緒に訪問させていただくことも増えてきていると感じています。

恐らく、ケアマネジャーともそういったケースが出てきているのかなと思うので、非常に貴重な場だなおもいましたし、委員の中でも高齢の方が多いうところはずごく特色なのかなと思ってお聞きさせていただきました。

最後に、相談支援部会にお聞きしたいのですが、資料の27ページ、委託相談支援事業所の業務が圧迫しているというお話が出ていたかとおもいます。私たちも業務の中で連携して行っているところですが、人員配置の問題や、相談業務もかなり入っていらっしゃるとお聞きしています。新規のご相談があっても対応がなかなか難しく、数週間、対応に関わってというようなこともあるようなお話もお聞きしておりましたので、結構、喫緊の課題なのかなと思っておりました。

もし可能であれば、札幌市の方にお聞きできればと思うのですが、何かバックアップをされるようなことや、今、こんなふうを考えていらっしゃるというようなことがあれば、教えていただければと思っておりました。

実際に、年に2か所ぐらい、理由は分からないですけども、委託返上されているような事業所があるようにお見受けしましたので、事業の継続性というところ、また、ころころ委託先が変わるというのもあまりよろしくないのかなと思っておりましたので、その辺り何かお考えがありましたら教えていただければ幸いです。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 今、アクションプランに基づきまして、毎年度、相談員の人数を増やしていく形で取り組んでいるというのが一つあります。

ただ、そうした中でも、相談の数は年々増えていきますし、相談員の疲弊が大きいものがあるというふうに各事業所の方からは聞いております。

今、障がい福祉課としても、相談支援事業の見直しをしていかなければならないと思っております。今現在、障がい福祉課で、各相談室を1か所ずつ回りながら、今抱えている問題や課題を聞き取りさせていただきまして、その中で、課題や問題となっていることを整理して、相談支援事業体制の見直しをしていきたいというふうに取り組んでいるような状況です。

以上となります。

○鴨崎委員 私たち地域包括支援センターは、委託を受けてさせていただいている事業であります。その中で、行政の方に1か所ずつ回っていただけるというお話で、私たちとしても直接そういったお話をさせていただくのはすごく貴重な機会だと思っておりますし、この事業を行政の方と一緒にやっていくというのが非常に大事なことと感じておりますので、ぜひお話を聞いていただければと思っております。

どうもありがとうございました。以上です。

○近藤会長 重要な点をいろいろと挙げていただけだと思います。

これと障がい連携では、私の大学のある当別町は、研修会を地域ケア会議と協議会とで合同開催をするような形で、同じ場にそれぞれの領域の方がいらっしゃる場もあったりしますので、少しつながりというか、何かきっかけがあれば、もしかしたら連携が深まっていくのかなとお話を聞きながら思っていたところではありました。

もう少しお時間がありますが、ご質問やご意見等、今の話題に関連するところでも構いませんし、あるいは、それぞれ報告の中で気になった点や付け足し等でも構いませんが、いかがでしょうか。

小熊委員、よろしくお願いたします。

○小熊委員 先ほど報告させていただいた地域部会連絡会について、もう少し詳しく状況をお話ししたいと思います。

各区の部会長のお話の中に、皆さんが何年も取り組んでいる課題整理シートについて、実績として成果があまり上がっていないところを見て、シートそのものに希望を持ってないと、現場ではもっと急がなければならないことがあって、結局、そのシートに頼るよりも独自で急いで動いていかないと、シートから現場のご利用者やそのご家族が救済されるケースがほとんどないということで、そういったことも各区の地域部会が盛り上がっていない、だんだん冷めてきているということにつながっているのではないかというご意見がありました。確かに、解決できていない実績はあるのですが、札幌市の規模が大き過ぎることであったり、いろいろあるのですが、多分、その問題はこれからもずっと続くと思うので、みんなで考えていきたいなと思う部分です。

小谷副会長からは、それでも、課題を抽出して声を上げていかなければ、その声自体も札幌市に気づいてもらえなくなるので、声を上げることだけでも意義はあるのだというようにお話もあって、ぜひこういったことを今後も積極的に皆さんと意見、議論していけたらなと思います。補足でした。

○近藤会長 課題整理シートの役割というか、活用も含めてというところのご意見かと思えます。

規模が大きい中で、全ての課題をというところはなかなか難しい側面もあるかもしれませんが、それが見える化される重要性と共有していくというところ、また、マイクロからメゾマクロ、個人の課題から地域の課題に広げていくというのも大事な役割ではありますので、そういった活用の在り方や、この課題整理シートそのものをどういうふうな意識で捉えていくのかも共通理解をしていくことが重要という投げかけのように感じておりました。

この辺り、ほかにどうでしょうか。

○斎藤委員 今の豊平区の小熊委員のお話は、地域部会連絡会のときに、白石の私が発言したことだと思のですが、実は、白石では、活動は8か月ずっと停止せざるを得ない状況の中で、地域部会の幹部の者が時々集まったり、電話やメールのやり取りで、この自立支援

協議会がずっとやってきた課題整理シートという方式に関して、正直に申し上げて、かなり欲求不満がたまっている状態です。

なぜならば、目的と手段をよくよく自覚しながら取り組まないと、いつの間にか、手段が目的になってしまうという現象を踏みかねないと認識しています。課題整理シートに書き込んで、課題を抽出して整理をすることはある程度労力を使うのですが、そこで何となくやっている感になってしまって、実際、これは、現場で我々が日々対応している具体的に救済しなければならない障がい者の人や家族に対して、本当に有効な救済方法になっているのかということが忘れ去られているような気がしています。各事業所で日々取り組んでいること、日々悩んでいること、利用者に、クライアントに対面して日々悩んでいることと、だんだんかけ離れた課題シートづくりに終わってしまって、そのために集まってきても、皆さん、今日は何だったのだろうねと帰っていくということがずっと繰り返されてきたような気がするわけです。

それは、もしかしたら白石のやり方がほかの区と違ってまずかったのかもしれないのですが、立ち返る時期に来ているのではないかという気がして、そういう発言をしました。

以上です。

○近藤会長 課題整理シートの有効性も含めて、もしかしたら見直しも視野に入ってくるのではないかなというお話になるかと思えます。

この辺りも様々なご意見があると思いますが、これまで取り組んできたものの活用と、また、場合によっては新たなものを生み出していくことが必要なのかもしれないので、どういう形がよりいいのか、必要に応じて検討や意見交換できたらいいのかなと聞いておりました。

この点、ほかに何かご意見等がある方はいらっしゃいますか。

○小谷副会長 私は、東区地域部会の部会長でもあり、また、自立支援協議会の副会長という立場でもあるので、自立支援協議会の運営会議にも参加しています。

各部会から課題が上がってきて、課題が部会の中で織り込んで、例えば、東区地域部会の中で解決できるのかという会議を行って、いや、これは東区地域部会だけでは難しい、市全体で考えてほしいというものを今度は運営会議に上げます。運営会議に上がると、またそれをカテゴリー分けして皆さんと協議をして、こういう方法もあるね、こういう情報もあるよねということをお話しされるのですが、その課題が出てから解決の方向性を見つけるにしても、解決できる問題ではないにしても、今、白石区の部会長が話したように、すごく時間がかかって、本当に困っている人に対してのフィードバックというか、解決に行っていないということは確かかなと私もふだん思っています。

最近、特に、自立支援協議会とはどういうものかということ、ワン・オール的林さんが一生懸命教えてくれるのですが、その辺のジレンマは若干持っているのが正直なところでは。

○近藤会長 利用者やご本人の課題にタイムリーに対応していくというところとは直結していないというお話かなと思われました。これも、協議会としての役割と援助を行うという役割をうまく整理したり共通認識としていくことが改めて求められているのかもしれないと感じました。この辺り、また、今後、少し意見交換できたらいいのかなと思います。

ちょうど予定していた時間になってまいりましたが、そのほかに、何か皆様から、各部会に関して確認事項等がある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 整理が必要かもしれないという話題もいただきましたので、また、検討しながら、なるべく早く解決ができて方向性を共有できたらいいのかなと思いますので、取組が進めていけるかどうかを含めて、確認、意見交換ができればと思います。

次の議題に移ります。

次は、運営会議の活動報告というところです。

運営会議の活動報告に関しましては、私からご報告をさせていただきます。

今年度の運営会議に関しましては、上半期は奇数月の開催となっております。

活動内容としましては、6月に全体会で終了が承認されましたプロジェクトに関する終了後の内容の引継ぎ、重複障がいに関するプロジェクトチームと、身体障がい者・知的障がい者の地域生活移行推進プロジェクトチームの終了が確認されましたが、引き継いでいく部分を改めて各部会の中で課題を抽出して再整理をしてはどうかという話で進んでおります。課題抽出を進めていくに当たっての手続きは、協議会の運用も出てまいりましたけれども、ひとまずは現行の進め方も確認をしながらお話をしていければと思います。

これは、何度か全体会等で共有させていただいているものかと思いますが、抜粋しながら確認をしていきたいと思っております。

協議会そのものは、障害者総合支援法を根拠にした機関という形で設けられていて、障がいがある方等への支援体制を整備していくことを図る目的を有しております。

その役割としましては、地域課題の報告や抽出、整理、分析、課題解決をしていくというところが求められております。今、さらに、その役割を果たすに当たって、協議会が機能していくべき六つの点というところで表示いただいております。

札幌市の自立支援協議会では、抽出された課題の解決に向けて、各部会で取り組んでいたり、市域全体としての協議会に報告することができるということを確認しております。こちらの図の流れになりますが、左側がプロセスとして先ほどの報告、抽出、整理、分析、課題の解決、右が部会で、そこから運営会議に持っていったり、全体会で取り組んだり、場合によっては、プロジェクトチームを結成して課題解決を進めていくといった内容になっております。

これらを進めていくに当たっては、地域課題の解決に向けていくというところで、図としては、丸、バツという形で、もちろん、行政を含めてという意味になるかと思いますが、協議会として協働をしていく、見え方が十分に伝わるというのは難しいのです。

けれども、この「要望」、「陳情」、「バトル」、「あきらめ」というところでは、ある意味で、一方通行で行政等にお話をしていくということだけではなく、我が事として、チームとして協働しながら課題の解決に向かっていきたいと思いますということを表しているというふうにとらえることができます。

協議会の果たすべき役割という部分と、他の様々な機関がありますので、協議会以外のところ、例えば、下に書かれていますけれども、直接、地域に働きかけるような手法もあれば、議員や窓口で直接お話をしていくというような様々な選択肢も課題解決の取組としてはあるかと思えます。その中の一つとして協議会の役割という形で、行政とも一体的に、地域の我が事として課題解決に取り組んでいくというような取組が進めていけたらということで、確認がされていたのかなと思えます。

これらを踏まえて六つの機能が果たされて、地域課題の解決ニーズにつながっていくととらえることができます。

今回、13の部会がありますけれども、先ほど最初にお話が出ましたが、重度障がいに関する課題検討と、身体障がい者・知的障がい者地域生活移行に関する課題検討で、まずは、先ほどの流れを酌む形で、課題の検討を進めていきたいということで確認をしております。

各部会で課題の抽出を行い、抽出された課題については、各部会で解決に向けた検討を行っていただくこととなります。そこで解決に向けた取組ができそうな場合には取組を継続し、解決が難しくなった場合は、地域の運営会議等に課題の解決に向けた取組の提案等を含めて、ご報告をいただくという形になっていきます。

報告した部会に関しては、解決に向けたプロセスに、最後まで関わっていただきながら続けていくということになります。

報告いただいた部分に関して、運営会議、地域協議会の中で、必要に応じて新たなプロジェクトを立ち上げて課題を解決していくといったような流れも含まれる可能性はあるかなと思えますので、まずは、各部会で取り組んでいただく点、地域で取り組んでいく点、この辺の流れを整理しつつ、課題解決に向けての検討をしていくというのが確認されております。

こちら、確認した課題の抽出から報告の流れについては、11月に開催されました地域部会連絡会でも確認がされていて、コロナ禍でスケジュールがはっきりとしないところはありますけれども、重度障がいに関する課題と、身体・知的に関する課題に関しては、年度内の期限に課題を集めていくということで、確認がされております。

そのほか、ヘルパーの技術向上に関するプロジェクトチームで残されていた人材不足に関する課題も挙げられておりましたが、こちら、元課題となるような部分が少ないということもあって、課題があれば、適宜、共有しながら、進めていきたいというようなことも確認がされていたかと思えます。

協議会で、人材確保や定着に向けてできる活動を検討していくということになっており

ます。

住まいに関するプロジェクトチームから引き継がれておりましたガイドブックの配布については、適宜、配布は継続していくことになっております。

もう一点、移動に関するプロジェクトチームの成果をどのように活用しているのかということも確認していきたいというお話が上がっておりました。成果の確認については、運営会議で継続的に確認をしていくということで、毎回の運営会議の中に盛り込んでいくという確認をしています。

分かりにくい部分もあったかもしれませんが、運営会議の報告については以上になります。

こちらについて、何かご意見やご質問があれば、ご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

課題を抽出、整理をしていただきながら進めていくことになるかと思っております。

特に、ご質問等がなければ、報告させていただいた内容を決定事項という形で取り組んでいきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

○重泉委員 僕は、この間の運営委員会でも確認したと思うのですが、最後のバトルをしないというところで、間違ってしまうと、自立支援協議会で何かニーズや課題があったときに、行政と一緒に取り組めないのではないかということが予想されるというか、何か要求や要望をしてはいけないというニュアンスが出てしまうので、再検討することになっていたと思うのですが、いかがですか。

○近藤会長 表現の仕方ですね。

○重泉委員 そうですね。あれが行き渡ってしまうと、ここで承認してしまうと、何か課題整理して終わりというふうになって、行政に何か物を伝えることはしてはいけないというふうに思っている人も実際にいるのです。ですから、その表現の仕方というのを変えていただきたいと思っております。

それから、今、厚労省では、サビ管研修に自立支援協議会という項目があるのですが、あの図を出してないのです。厚労省では、自立支援協議会の説明のときに、あのような説明をしていないので、もう少し考えていただきたいなと思っております。

○近藤会長 協議会の役割や説明の表現と、皆さんに役割を知っていただくことで、より円滑に進められるというところですが、この辺りはいかがでしょうか。事務局を含めて、ご意見や確認があればどうぞ。

重泉委員 方向性を変えるというよりは表現の仕方ということでよろしいですか。

○重泉委員 表現の仕方もそうですが、さっき言っていた自立支援協議会というのは何者ぞというところで重要だと思えますし、小谷副会長が言うように、声を上げるということも大事なことだと思いますので、それを失うようなことは避けたほうが良いと思うのです。表現ということもありますけれども、ここの主目的の確認も含めて発言させていただきました。

○近藤会長 ありがとうございます。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 今話を踏まえまして、運営会議で改めて検討させていただければと思います。

○近藤会長 では、こちらの内容については、整理し、意見交換しながら進めていくということによろしいですか。

今、発言ある方がいらっしゃいましたが、大丈夫ですか。

○荒川委員 荒川です。

私も運営会議に出席しているので意見を言おうと思ったのですが、渡辺係長から検討するとありましたので、特にないのですが、課題がなかなか解決しないことも多くて、課題を出しても不安全感というものも正直あると思うのです。

そういった中で、支援力を高めたりするような課題だったら、私たち福祉の関係者で解決し切れるところもあったり、間違いや混乱などしているものを修正していくことは、割と行政も得意だったりと思うのです。予算となると、障がい福祉課が予算を持っているわけでもなかったりするので、その辺が難しきなのだなと運営会議でもいつも考えさせられています。

以上です。

○近藤会長 様々な状況も踏まえつつ、できることをみんなで一緒に取り組んでいける体制を改めて確認して進めていければと思いますので、ぜひ皆さん、ご協力いただきながら、よろしくお願ひします。

では、ご報告させていただいた件のうち、今の協議会の図に関しては検討していくところで、ほかの取組としてはよろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○近藤会長 そちらは、決定ということで進めさせていただくということでお願ひできればと思います。

では、会議の報告については、以上で終わりにさせていただきたいと思います。

続いて、次第のさっぽろ障がい者プラン2018に関する進捗報告になります。

障がい福祉課の事業計画担当係よりご説明をお願いします。

○事務局（干場事業計画担当係長） 私は、事業計画担当係長の干場と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、お時間の関係上、全ての事業についてご報告することは難しいので、進捗の総括といたしまして、成果目標の達成状況と、プランで掲げている10の分野について、代表的な事業の取組を簡単にご説明させていただきます。

まず、表紙をおめくりいただきまして、1ページ目に、札幌市の現状として、障害者手帳をお持ちの方の人数の推移を記載しております。

ここ数年、傾向は変わりませんが、身体障害者手帳をお持ちの方はほぼ横ばい、療育手帳や精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は増加の傾向にございます。

3ページの療育手帳、4ページの精神の手帳、それぞれ等級別の所持者数ですが、特に、療育手帳では軽度のBバーの方が、精神手帳では2級、3級の方が増加傾向にあります。

また、5ページ、難病患者数ですが、受給者証をお持ちの方は、ここ数年増えております。

これらのことから、札幌市の現状といたしまして、障がいのある方や難病の方は年々増えていけると言えます。

次に、9ページをご覧ください。

成果目標の達成状況についてご説明いたします。

さっぽろ障がい者プランでは、成果をはかる目安として、六つの成果目標を掲げています。このうち、一つは、札幌市が独自に定めるもの、障がいのある方に対する理解促進という成果目標になりますが、残り五つは、国が示す基本指針をベースに、札幌市の実情を踏まえて定めたものになります。

9ページの項目は、この国の基本指針をベースに定めた五つの成果目標の達成状況を、はかる指標として国が指定しているものになります。

本日は、2020年度の進捗報告となりますので、2018年度に策定した3年計画の最終年として、第5期の障がい福祉計画、第1期の障がい児福祉計画の進捗の総括となります。

表の一番右の欄、達成率をご覧ください。

一番上の項目のみ最終年度の実績が出ておりませんが、それ以外の多くが90%、100%以上の達成率となっております。成果目標はおおむね達成できたのではないかと考えております。

本日は、達成率の低い表の1行目と2行目を指標とする成果目標、施設入居者の地域生活への移行について簡単にご説明させていただきます。

施設入居者の地域生活の移行の達成をはかる指標は、国の指針に基づきまして、1行目の地域生活への移行者数と、2行目の入所者数の減少の二つの項目を設定しております。

順序が逆になりますが、2行目の入所者数の減少からご説明いたします。

こちらは、札幌市で援護する入所者の方の減少数を指標としておりまして、2017年3月末の入所者数と、2021年3月末の入所者数との差を示しております。

主な減少要因は、地域移行や死亡、入院などですが、その後に入所される方が札幌市の援護者でない場合などに減少していることが考えられます。

これは、在宅サービスなどの総合的な充実を図ることで促されています。この数字自体は、誰が、いつ入所して、いつ、どのように退所といった一人一人の動きを追跡したものではなく、各年度末の総入所者数の比較によって算出していますが、減少数にばらつきはありますが、一貫して減少傾向にありますので、札幌市の援護の方の新規入所は抑制が図られているとも言えます。

一方、1行目の移行者数は、実際に入所施設から在宅やグループホームに移行した人数で、北海道が毎年調査をしております。

今回の報告では、令和元年度の実績値に誤りがありまして、現在、再集計中のため、平成30年度、単年度27人で達成率を計算しております。このため、21.6%という非常に高い数値になっておりますが、最終的な達成状況といたしますのは、平成30年度、令和元年度、令和2年度の3年間の累計で判断いたします。

ただ、この項目につきましては、いずれにしても目標達成は厳しいものがあると考えております。

要因といたしましては、入所者について、年々高齢化が進んでおりまして、長く過ごした施設から在宅に戻るといことが、ご本人様やご家族にとって、なかなか容易ではないことが考えられます。

総括いたしますと、札幌市では、地域への移行者数そのものは、高齢化などで伸び悩んでおりますが、一方、在宅サービスの充実に向けて努めてきた経緯もございまして、障がい者が比較的軽い方をはじめ、新規入所は抑制されている状況にあると考えてられます。

入所者には、高齢化だけではなく、重度化の傾向もございましてことから、移行者数の実績を上げていくのは容易ではございませんが、札幌市といたしましては、引き続き、在宅サービスの制度の充実、地域における相談サービスなどの利用促進を通じて、取組を進めてまいりたいと考えております。

続きまして、資料11ページから、各種取組の進捗状況についてご報告してまいりたいと思っております。

さっぽろ障がい者プランでは、10の分野を設定しておりまして、四つの横断的の分野と六つの施策分野で構成されております。

横断的の分野は、障がい福祉施策を決める基本となるもので、札幌市が全庁的に取り組んでいくべき分野になります。

六つの施策分野は、生活の支援、就労の支援など、障がいのある方のニーズに応じて分類したものです。

本日は、各分野の代表的な事業について、それぞれ一つずつ2020年度の状況を説明いたします。

まず、横断的の分野は、障がいなどへの理解促進についてです。

理解促進につきましては、様々な施策の基本となるものと考えております。

11ページの上の表、ヘルプマーク、ヘルプカードの普及事業ですが、こちらは、皆様もご存じのとおり、外見上、分かりづらい障がいのある方にお持ちいただくためのもので、区役所や地下鉄駅窓口などで配布しております。

令和2年度1年間で、およそ1万4,000個を配布いたしまして、配布を開始した平成29年10月から今年3月までの累計配布数はおよそ6万個でございます。

続きまして、施策分野2、保健医療の推進に関する取組でございます。

資料は、67ページになります。

このさっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業は、札幌市が独自に取り組んでいるもので、心の問題を抱えるお子様方に対し、学校などからの相談も踏まえ、適切な医療機関をご案内する事業でございます。

令和2年度の利用件数が818件、そのほかにも、関係の専門機関連携による研修会などを行っているところでございます。

最後に、ページが飛びまして、108ページです。

こちらは、サービス見込量の進捗状況を掲載しております。

本日は、時間の関係上、個別の説明は割愛させていただきますが、傾向といたしまして、同行援護や短期入所など、新型コロナウイルスの影響を受けて、若干減少しているサービスがございますが、計画相談や通所など日中活動系の事業に関しましては、近年の傾向どおり、増加している状況でございます。

2021年度からの新たな計画におきましても、障がいがある方が増えている状況を踏まえまして、サービス量はおおむね増加傾向で見込んで計画しているところでございます。

以上、駆け足の説明となりましたが、私からの説明は以上でございます。

○近藤会長 今、ご説明いただいた部分に関して、何かご意見やご質問等がある方はいらっしゃいますか。

小熊委員、お願いいたします。

○小熊委員 資料の9ページでご説明いただいた入所施設の入所者の地域移行への移行者数というところで、正確な数字ではないとありましたけれども、極端に低いというご説明でした。ここは、今後、もし地域として扱うことになるのであれば、先ほどのお話の中で、一度、私からお話しした重度訪問介護の非定型申請と問題も関連してくると思っておりますので、今後、そういったことも含めて議論していければなと思っております。

以上です。

○近藤会長 ご意見ということでいただきました。

ほかにはいかがでしょうか。

小谷副会長、お願いいたします。

○小谷副会長 今、小熊委員がおっしゃったように、障がいが軽い人が地域に出てくるのではなく、軽い人ももちろんいいのですけれども、たとえ重度の障がい者であっても、本当は地域で生活するのが当たりまえというふうな社会にならないといけないと思うのです。

ですので、いろいろな形で入所者から話を聞くことができるのですが、まず、施設入所している方に入ってくる地域生活の情報がとても少ない状況と、重度であれば重度であるほど、さっき非定型の話もありましたけれども、地域に出てきたときに、その人が生活していける地域でのサービスが十分に整っているのかという問題があると思っております。

私も、まださらっとしか読ませていただけていないのですけれども、目標を立てていた

だくのはいいのですが、いろいろなところで障がいサービスの整備をしていく、話は戻りますが、それこそ、介護人が不足している状況をどうにか解決していったら、障がい者がいかに地域の中で生活できるか、整えていかなければいけないことがたくさんあると思うのです。

ですから、すごく高い目標で、正確ではないといっても、進捗はとても少ない状態になっているというのは、そういうところに原因があるので、その辺も考えて、この後、地域移行を進めていってほしいなと思います。

もう一つ、ヘルプマークの話ですけれども、随分、街中でヘルプマークをつけている方を見かけるようになりました。

でも、私がすごく感じているのは、障がいを持っている方はヘルプマークのことはよく知っているのですが、障がいを持っていない人がヘルプマークを見て、この人は何か障がいや病気があるのだなと分かってもらわなければいけないのです。市民に対しての周知や啓発もしていかななくては、せっかくヘルプマークをつくっても、それが生かされないのではないかとすごく感じています。

私の意見としては、以上です。

○近藤会長 地域生活と、ヘルプマークに関するご意見ということで頂戴いたしました。

ほか、いかがですか。

○事務局（干場事業計画担当係長） 地域生活の関係につきましては、いただいたご意見も踏まえて、2021年度からの新しい計画におきましても、非定型の導入や、緊急時の相談支援や、受入先の確保の機能を備える地域生活支援拠点の活用などもさらに強化して進めていくということで目標として据えておりますので、引き続き取り組んでいきたいと思っております。

ヘルプマークにつきましては、今回の新しい計画を立てたときにも、計画検討部会委員の方から同じようにご意見をいただきました。やはり、ヘルプマークの趣旨、配慮が必要な方が持つもので、障がいのない方がこれを知って心のバリアフリーをしていかなければいけないというところで、我々の普及啓発も、配布数を増やすだけではなくて、趣旨の理解を進めるという取組を強化していきたいと思っております。

それで、パンフレットや、各ポスター、地下鉄の車内での広告なども含めまして、できるだけ多く理解を求めるような形で、広報、普及啓発していきたいと思っております。

○近藤会長 そのような形で進めていただけるといことで、ご意見をいただきました。

鴨崎委員、よろしくお願いたします。

○鴨崎委員 1点、質問させていただければと思います。

資料の51ページの下の精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステム構築のための関係機関による協議の場の設置ということでお聞きしたいと思います。

私たち地域包括支援センターは、主に65歳以上の方ですけれども、総合相談の中で、精神疾患があるのではないかとと思われる方、未治療であったり、治療中断をしてしまっ

いて地域の方や家族の方からどうしたらいいだろうかという相談、あるいは、認知症のBPSDがかなり進んでいてどうしたらいいのかという相談も増えてきております。

我々としても、精神科の病院との連携をもう少ししていけないだろうかと考えています。障がいの委託の相談支援事業所の方々と一緒に、今、精神科病院との連携を模索しているところで、事業を展開しているところでした。ですから、私どもとしても、こういった情報に関心が高く、国が示している内容も確認していたところです。

札幌市として、令和3年3月に協議の場を設置したということで記載がありまして、まだ会議が開かれていないのか、もし開かれていけば、どのようなお話がされていたのかということと、もしされていないければ、進捗状況や、どんなことを話し合われるのか、どこかで見るのが可能か、知ることができるのかということをお話いただければ幸いです。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 協議の場ですけれども、設置はしてはいます。本年度9月に1回目の会議を開催しているというふう聞いております。

1回目の会議の内容については、今、この場では資料がなくてお答えできないのですが、引き続き、2回目、3回目という形で継続して会議はやっていくものと考えております。

○鴨崎委員 その会議の進捗をどこかで確認できるかということもお聞きしたのですが、いかがでしょうか。

○事務局（渡辺就労・相談支援担当係長） 今、こちらで確認できていないので、改めて確認できるかどうかを含めて、何らかの形でご連絡をしたいと思います。

○鴨崎委員 分かりました。

○近藤会長 尾形委員、お願いします。

○尾形委員 この点について、補足説明させていただきます。

私自身、この「にも包括」のメンバーに入っています。9月21日に第1回目の会議がZoomで開かれました。

中身としては、初めての会議ということもあって、委員同士の自己紹介を中心とした顔合わせに始まり、札幌市における精神保健医療福祉に関する様々な課題等がいろいろと話し合われました。例えば、地域移行が促進されないという全国的な課題については、札幌市も例外ではなく、同様に長期入院や社会的入院が解消されないという課題を抱えているということを共有したところです。

他にも、例えば、精神科病院の敷居が高くて受診がづらい状況があるのではないかと、予約制になっていて簡単に気軽に受診できる体制が整っていないのではないかと、自立支援協議会でも上がっている子どもを巡る課題に関しては、児童・思春期に対応できる病院が少ないといった課題等も挙げられていました。

あまりにも課題があり過ぎて、どれから手をつけていくべきかということについては、1回目の会議では時間がなくて十分には検討できませんでした。協議会の前会長である北星

学園大学の永井先生が「にも包括検討会」の会長を、私が副会長を務めることになりましたが、この会長、副会長、そして札幌市で、次の会合までに会合を持ち、まずは論点整理をするといった流れになっていたと思います。議事録等については、まだ出来上がっていないと思うので、改めて確認いただければと思いますが、そういった話合いがなされたということを説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○近藤会長 情報提供いただきまして、どうもありがとうございます。

さっぽろ障がい者プランに関しまして、質問等は以上でよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 それでは、どうもありがとうございます。

その他に入る前に、先ほど各部会のご報告の中で、子ども部会について、金澤委員が入ってからということだったのですけれども、なかなか難しかったということで、事務局から簡単にご報告をいただければと思います。時間超過している中で申し訳ないですが、お願いいたします。

○事務局(加藤職員) 時間オーバーしていて、申し訳ありません。

金澤委員の参加が難しそうなので、事務局から報告させていただきます。

資料の29ページ目の子ども部会です。

まず、令和3年度の上半期として、定例会を1回、9月14日に開催しております。

部会内での課題整理や活動方針の検討を行っているほか、セミナーの開催方法の検討を行っております。

下半期の活動予定として、部会内での課題を整理して実行することを行っております、また、障がい児支援に関わる各種会議といった機会を捉えて、その意見を提案することを予定しております。

部会運営で工夫していることや困っていることですが、多方面の意見を反映できるように、当事者や関係行政各部署からの参加を得て、運営委員の構成を工夫して協議を進めております。

また、研修会などの参加機会がすごく増えてきて負担が増加しているということもありますので、副部会長を1名から2名体制に規約を改正して行っております。

簡単ですが、以上です。

○近藤会長 内容が飛んでしまって申し訳なかったですが、子ども部会の報告もいただきましたが、何か確認事項がある方はいらっしゃいますか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 ありがとうございます。

最後に、時間を超過しているところではありますが、その他として、今日の全体を通して何かご意見がある方、もしくは、連絡事項等がある委員の方はいらっしゃいますか。

小熊委員、どうぞ。

○小熊委員 各区の地域部会で、盛り上がりや定着率も悪いということがあったので、提案

です。

例は少ないのですけれども、一度、自立支援協議会で情報共有されたことや共通認識を持てたことは、すごく強いものになるという印象があります。例えば、好事例は少ないですけれども、相談支援事業所が過去に中心になって動いた生活保護の申請自体を拒否されたという事例が今はほとんどなくなっているのです。そういったすごく変化があったことや、これも相談支援事業所がみんなで頑張ってくれたおかげですけれども、札幌市では65歳問題がほとんど起きていないといういい事例、重度訪問介護の入院時のヘルパー派遣に対して市がすごく尽力してくれて医療機関の理解を進められたといったいい事例を今後まとめていけたら、自立支援協議会はすごく意味があるというふうに変わるかなと思ったので、提案でした。

以上です。

○近藤会長 取り組んだいい事例として、今後の活動で皆さんにお伝えしながら、共有できるものを整理できたらいいのではないかというご意見もいただきましたので、ぜひ活性化していくような、より盛り上げていけるような取組として、また検討を進めていければと思います。ご意見をありがとうございます。

ほかは、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○近藤会長 手際が十分ではなくて、時間を超過してしまいました。申し訳ありません。

以上で、予定しておりました議題につきましては、終了しますので、こちらで、私の役割は終了させていただきたいと思っております。

ありがとうございます。

それでは、事務局に進行をお返しします。

3. 閉 会

○事務局(渡辺就労・相談支援担当係長) 近藤会長、ありがとうございます。

委員の皆様におかれましても、長時間のご審議いただきまして、ありがとうございます。

傍聴されている方々につきましても、ご協力いただきまして、ありがとうございます。

傍聴された方におかれましては、事前にお配りしております意見参加シートを障がい福祉課へ郵送、または、メールでご提出いただければと思います。今後の協議会の運営の参考にさせていただければと思っております。

次回の全体会ですけれども、改めまして、事務局から皆様に予定をお聞きして、開催日を決めていきたいと思っております。

それでは、以上をもちまして、第37回自立支援協議会を終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上